



学校だより



青梅市立東小中学校
令和6年度 第10号
令和7年1月31日

自分の可能性を信じて努力しよう！

中学校副校長

三学期が始まって、あっという間の1月でした。一日一日を大切に、健康には気を付けながら、学習に生活に励んでほしいです。

先日、元プロ野球選手のイチローさんが、日本人初のアメリカの野球殿堂入りを果たすという、嬉しいニュースがありました。イチローさんの活躍・実績は多くの方がよく知っていると思います。アメリカの野球の歴史から考えても、ものすごい偉業です。

今回の殿堂入りの投票では、投票総数 394 票のうち、得票は 393 票で、満票に 1 票だけ及びませんでした。歴代でも満票はたったの一人、1 票足りない準満票は、イチローさんを含め二人しかいません。発表後の記者会見でイチローさんは「1 票足りないのはすごく良かった。生きていく上で、不完全だからこそ進もうとできる。そこに向き合えるというのは良かった。」と言っています。1 票足りなかったことを悔やむのではなく、結果を前向きに受け止め、さらに前進しようという思いが伝わってきます。マイナスをマイナスと考えるのではなく、自身の伸びしろとして、プラスのエネルギーにしているポジティブな考え方に、感銘を受けました。

また「自分よりも才能のある人はたくさんいる。自分の能力を生かす能力は別にある。いくら才能があっても努力しなければ伸びない。」とも言っています。誰にでも才能・能力はある。それをどのように生かし、伸ばしていくかは自分しだいであるということだと思います。

以前にお話したことがあります。みなさんには「無限大の可能性」があります。「自分はダメなんだ。」と簡単にあきらめたら、そこでストップです。みなさんには伸びしろしかありません。まずは自分の可能性を信じて、能力を生かすための能力を見つけ、少しずつ努力してみましょう。その先に必ず明るい未来があります。これからも応援しています。

大人になるということ

大人になるってどういうことなんだろう？

アフリカのある国でのお話です。

この国は、干ばつといって、雨が少ないひどい水不足が続きました。日本とちがって水道のないこの国は、雨にたよるしかありませんでした。もともと砂漠の多いところでしたが、干ばつで砂漠は広がる一方でした。

そんな話を聞いた、ある日本人がいました。その人は、古くから伝わっている、地面の下にある水を掘り出す井戸掘りの技術をもっている人でした。その人は仲間を集めアフリカへ向かいました。作業は思っていたより、とても大変なものでした。その日本人たちは、ただ井戸を掘っただけでなく、この国の人たちにも井戸の掘り方を教えて日本に帰りました。そして今では、この国は、雨が少ない年でも干ばつになることはありませんでした。

これは、遠いアフリカで働いた日本人のお話ですが、あなたのまわりで働いている大人の人のことを思い出してみてください。きっと、どの人も世の中のだれかの役に立つことをしているはずです。よく考えないと気が付かないかもしれませんが、物を作ったり、育てたり、売ったりすることも必ずだれかの役に立っているはずです。

大人になるということ。

それは、今はまだ会ったこともないだれかのために、本当に役に立つ働きができるようになることなのです。

歯の学習・・・中学1年生 歯科医師 武藤先生から学ぶ

1月15日(水)、中学1年生を対象に、本校学校歯科医の先生をお招きして、歯科保健の学習を行いました。口の中の健康についてのお話の後、歯を染め出してブラッシングの練習を行いました。昼食後の歯みがきが丁寧でみなさんとてもきれいでしたが、みがき残しのところを発見し、さらにピカピカになりました。

《生徒のお礼の言葉》

今日は私たちのために来てくださりありがとうございました。私は、先生の話聞いてよく^か噛んで食べることの大切さと歯が悪いとやりたい職業ができなくなるということに驚きました。私は歯のことについて詳しくなかったもので、とてもいい勉強になりました。今日学んだことをこれからの生活に活かしたと思います。

小学校 総合的な学習の時間 脱穀 ・ もちつき

1月16日(木)に米作りの一環で脱穀の活動を学びに、青梅総合高校の田んぼへ行きました。脱穀から粳摺り・精米までの一連の工程をまず手作業で体験し、その大変さを知りました。特に脱穀作業として体験させてもらった千歯こきと足踏み脱穀機は、脱穀されていく感触を一人一人手で味わいました。その後、同じ工程を機械で瞬く間に行われていく様子を見学して、機械の進歩のすごさを実感しました。

そして1月24日(金)は、脱穀の時にいただいたもち米「満月もち」を使い、もちつきを行いました。臼杵でついたり、自分たちで味付けをしたりして、楽しみながらみんなで昼食の準備をしました。5年生の作った味噌汁も加わり、磯部、きな粉など全部で6種類の味付けでおもちを味わいました。

今回のもちつきでは、総合高校からたくさんのもち米をいただきました。子供たちも感想の中で「感謝」「協力」という言葉を多く使っていました。食物は私たちの命そのものです。その食物を私たちは毎日当たり前のようにいただいています。背後には多くの方々の努力と工夫があることを、この行事を通して知り、感じることができました。ご協力くださった学園の先生方、寮の先生方、そして総合高校の先生方に、改めて感謝の気持ちを表したいと思います。ありがとうございました。